

令和6年度(2024年度) 学校評価総括表 【伊丹市立池尻小学校】

教育目標		『すべての子どもを幸せに』～自尊感情を高め、自立したくましく生きる児童の育成～						
重点目標		・家庭学習及び読書習慣の推進 →ICTを活用した授業改善及び情報モラル教育の推進 →児童の体力向上の推進 ・不登校傾向の児童や保護者への支援体制の充実 →地域と学校の連携・協働体制の構築						
主要施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価
知・徳・体の調和のとれた児童・生徒の育成 学校教育	『建かた学力』の育成 ①授業改善 ②誰一人取り残さない取組 ③学校・家庭・地域の連携	・基礎的基本的な知識技能を習得させる。	・あてて読提示し、ふりかえりで理解を確認しながら授業を進める。 ・児童アンケートにおいて「授業はわかりやすく楽しい」との回答が90％以上	・児童アンケート「家」で低学年は30分、中学年は60分、高学年は90分以上学習している」で70％以上、②「宿題や課題をきちんとやりきっている」で90％以上 ・職員アンケート「時間に見合う課題を与えている」の回答が90％以上 ・児童アンケート「家で読書(図書、朝学習など)で読書をしている」の回答が95％以上 ・保護者アンケート「子どもは家庭で読書をしている」の回答が80％以上	B	・児童アンケートの結果が90％となった。授業を日々工夫しながら計画的に進めている。 ・児童アンケートの結果①は62％、②91％。教職員アンケートの結果は79％である。家庭での学習習慣を達成するための課題について対策が必要。	・継続して授業研究、授業改善をすすめている。 ・家庭学習の内容に自主学習を入れる。 ・3年生から自主学習を取り入れる。	・基礎基本の定着のために、家庭学習の取組を継続して放し。 ・家庭学習や読書など児童の自主性が求められる項目について、目標達成は難しく、家庭との連携がより求められると思われる。 ・宿題をやりきることはできていない様子。宿題の他に自主学習に取り組んで、目標時間の学習ができるように家庭でも声をかけていきたい。
			・学級文庫の充実。 ・学年だよりや図書だより等、掲示や配布物で呼びかける。 ・図書委員による図書イベントの企画をする。 ・朝読書の実施(15分×3回) ・家庭・地域と連携して「町の先生」を活用する。 ・地域、保護者と連携した土曜子ども室を実施する。	・児童アンケート「家で低学年は30分、中学年は60分、高学年は90分以上学習している」で70％以上、②「宿題や課題をきちんとやりきっている」で90％以上 ・職員アンケート「時間に見合う課題を与えている」の回答が90％以上 ・児童アンケート「家で読書(図書、朝学習など)で読書をしている」の回答が95％以上 ・保護者アンケート「子どもは家庭で読書をしている」の回答が80％以上		・児童アンケート結果83％、保護者アンケート結果41％である。 タブレットを活用した読書ができるようになり、昨年度の結果(児童57％、保護者37％)より向上している。しかし、朝学習での読書の徹底、家庭での読書推進が必要。 ・地域の方の協力、企業などの出張授業を活用しながら進めることができた。 ・児童が参加し学習を進めることができた。	・タブレットを活用した読書も含め、学年だよりや図書だより等、掲示や配布物で呼びかける。 ・継続して図書ボランティアや図書イベントの企画を実施する。 ・継続して地域と企業とのつながりを大事にし、体験型授業の工夫をすすめている。	
	新しい時代に対応した教育の推進 ①情報活用能力の育成 ②英語教育の充実 ③デジタル化の促進	・わかる授業をする ことにより学習意欲を向上させ、達成感を味わわせる。 ・情報機器を活用した授業に取り組む。	・外国語活動や英語教育を充実を目指す。 ・情報機器を活用した授業に取り組む。	・活動を中心とした外国語活動を実施して、児童に「興味・関心を持たせる。」 ・「児童アンケート「英語の授業を通して、日本との違いに気付くことができた。」の回答が70％以上 ・児童アンケートにおいて「先生は、教える方にいろいろ工夫をしている」との回答が90％以上	B	・児童アンケートの結果が69％である。 ・各学期に1回情報モラルの授業を実施できた。今後は系統立てた教育計画が必要。 ・各学期1回情報モラルの授業を実施できた。 ・児童アンケートの結果が94％であり、活動を通して外国語・英語についての興味・関心が向上してきている。 ・児童アンケートの結果が95％であり、ICT、タブレットの活用が定着してきている。	・スクールタクトの新機能の紹介や授業におけるアプリの紹介を行い、ICT機器の推進を進めている。 ・「アプリ等」を利用し、よICT機器を活用している。 ・タブレットを使用した学習はとても充実していると感じる。発表する際にタブレットで資料を作るなど、上手にできていると思う。	・これまでによい動きを生みながら、ICT機器の効果的な指導につなげていきたい。 ・「アプリ等」を利用し、よICT機器を活用している。 ・タブレットを使用した学習はとても充実していると感じる。発表する際にタブレットで資料を作るなど、上手にできていると思う。
			・児童を理解し、指導の徹底を図る。 ・自分からあいさつができるよう、日々の生活の中で指導を進める。 ・通達や日々の授業・学級指導の中で、自分大切にすることや、他の人への思いやりについて考えさせる。 ・いじめの未然防止、早期発見、早期対応に取り組む。	・生活指導、人権、特別支援の研修会を実施する。 ・職員アンケート「児童を理解し、指導の徹底を図る」80％以上 ・児童アンケート「じんからすすんであいさつをしている」85％以上 ・児童アンケートにおいて、「自分大切にすることや、他の人への思いやりについて学んでいる」児童が90％以上 ・児童アンケートにおいて「学校へ行くのが楽しい」との回答が80％以上		・職員アンケート結果が96％であり、研修会も計画的に実施できた。 ・児童アンケート結果が84％である。自分からの挨拶習慣についてはより高まってきた。 ・児童アンケート結果が92％であり、日々の授業や生活の中で、丁寧な指導を進めることができた。 ・児童アンケート結果が84％である。 いじめアンケートを実施し、問題の早期発見、対応、解決を行うことができた。	・研修会だけではなく、日々の職員全員での共有も大切に、児童理解、指導の徹底を進めている。 ・学校内では、外部の者に対しては挨拶をすることにより、一体感が生まれ不登校児童も減るのではないだろうか。 ・不登校対策についての取組は効果的で一定の成果はあっている。 ・学級力アンケートにも興味を持ち、自分たちどうしたらいいかと思ふ。家庭でのゲーム、スマホ、タブレットに対するルール作りは正直なところ大変である。	・不登校対策に関しては、今後も幼稚園や関係機関と共有しながら進めて指導の徹底を進めている。 ・学校内では、外部の者に対しては挨拶をすることにより、一体感が生まれ不登校児童も減るのではないだろうか。 ・不登校対策についての取組は効果的で一定の成果はあっている。 ・学級力アンケートにも興味を持ち、自分たちどうしたらいいかと思ふ。家庭でのゲーム、スマホ、タブレットに対するルール作りは正直なところ大変である。
	『豊かな心』の育成 ①道徳教育の推進 ②いじめ等の未然防止、早期発見、早期対応に向けての組織的な取組の推進 ③不登校の児童生徒やその保護者への支援体制の充実 ④体験活動等の実施	・問題行動に対する指導体制を充実させる。 ・いじめの未然防止、早期発見、早期対応に取り組む。	・児童が自分の生活を振り返り、望ましい生活習慣について考えることができる。 ・食生活に心をもち、健康に生活しようとする児童を育成する。 ・食育を給食の時間や授業において進める。 ・給食の大切さについて、学級指導を進めている。 ・低学年への給食指導を実施する。	・児童アンケートにおいて「学校へ行くのが楽しい」との回答が80％以上 ・児童アンケート「毎日、朝ごはんを食べている」の回答が95％以上になる。 ・保護者アンケート「給食を身につけさせている」84％ ・栄養教諭による給食指導を行う。	B	・児童アンケート結果が84％である。 いじめアンケートを実施し、問題の早期発見、対応、解決を行うことができた。 ・不登校対策委員会や、ケース会議など関係機関と連携し、不登校児童の支援体制を整えていく。 ・今後、別室登校の整備や体制作りを進めていくことが必要。 ・日々の指導や、保護者への啓発などを発達段階に応じて指導できた。 ・情報モラル教育は、学期に1回各学年で設定し指導できた。	・不登校児童の支援体制を整えていく。 ・今後児童・保護者へ啓発を続けていく。 ・運動プログラムについて、周知徹底を行い、内容を充実していく。 ・学校全体で長編に取り組む、体力の向上を目指す。 ・生活習慣について、便りや長期休業前の指導などで考える機会を持たせた。 ・生活習慣について指導したことを通便などで周知する。 ・学級力アンケートを実施し、生活習慣を見直さすきっかけを作る。	・不登校児童の支援体制を整えていく。 ・今後児童・保護者へ啓発を続けていく。 ・運動プログラムについて、周知徹底を行い、内容を充実していく。 ・学校全体で長編に取り組む、体力の向上を目指す。 ・生活習慣について、便りや長期休業前の指導などで考える機会を持たせた。 ・生活習慣について指導したことを通便などで周知する。 ・学級力アンケートを実施し、生活習慣を見直さすきっかけを作る。
			・児童の体力の向上を図る。 ・児童生徒の体力向上の推進 ②魅力ある部活動の推進 ③発達段階に応じた健全な食育の推進	・健康な生活習慣について、保健だよりや児童保健委員会活動を通して知らせる。 ・食育を給食の時間や授業において進める。 ・給食の大切さについて、学級指導を進めている。 ・低学年への給食指導を実施する。		・児童アンケート結果が72％である。今後、運動プログラムの周知徹底、内容改善が必要。 ・委員会を中心に、年間休みの運動遊びプログラムを計画することができた。 ・生活習慣について、便りや長期休業前の指導などで考える機会を持たせた。 ・児童アンケート結果が91％、保護者アンケート結果96％である。 今後、さらに日々の給食で、食への興味関心を広げさせることが必要。 ・企業や関係機関と協力して食の指導を行うことができた。	・運動プログラムについて、周知徹底を行い、内容を充実していく。 ・学校全体で長編に取り組む、体力の向上を目指す。 ・生活習慣について、便りや長期休業前の指導などで考える機会を持たせた。 ・生活習慣について指導したことを通便などで周知する。 ・学級力アンケートを実施し、生活習慣を見直さすきっかけを作る。	・学年ごと、1年に1回以上出前授業に取り組む。 ・今後幼小連携を推進する。 ・キャリア教育を推進するための施策について具体的に考えていくことが必要。 ・不登校対策やケース会議など、個々の事業に応じて連携し、校内での居場所作り・支援体制について進めている。 ・サポーターファイルの作成を行い、前期・後期ごとに個別の計画や成果を記録した。 ・校内研修で年に2回全職員で研修会を持つことができた。 ・進回相談などを活用し、適切な支援を試みることができている。 ・学年ごとに1本、年間8本の研究授業を実施することができた。 ・職員アンケートで93％。研究推進から発表し、他校の研究に積極的に参加している。
教育関係者・支援体制の充実 学校教育	教育相談・支援体制の充実 ①キャリア教育の推進 ②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用 ③教育相談の充実	・児童の志趣を把握し、関連機関との連携を密にとる。 ・児童の志趣を把握し、関連機関との連携を密にとる。	・キャリアパスポートを実施する。 ・各教科や日常生活で、児童に自分自身についての理解を深めさせる。 ・「SSO」を活用して支援体制を整える。 ・関係機関と密に連絡を取り相談する。	・2回キャリアパスポートの記入を実施した。 ・職員アンケート「各教科や日常生活の中で児童が自分自身についての理解を深められるように指導している」80％以上 ・支援を必要とする児童の把握と関係機関への支援体制を整える。 ・ケース会議や校内委員会を必要におうじて実施。	A	・キャリアパスポートの結果は83％である。 キャリア教育を推進するための施策について具体的に考えていくことが必要。 ・不登校対策やケース会議など、個々の事業に応じて連携し、校内での居場所作り・支援体制について進めている。 ・サポーターファイルの作成を行い、前期・後期ごとに個別の計画や成果を記録した。 ・校内研修で年に2回全職員で研修会を持つことができた。 ・進回相談などを活用し、適切な支援を試みることができている。 ・学年ごとに1本、年間8本の研究授業を実施することができた。 ・職員アンケートで93％。研究推進から発表し、他校の研究に積極的に参加している。	・各学年、1年に1回以上出前授業に取り組む。 ・今後幼小連携を推進する。 ・キャリア教育を推進するための施策について具体的に考えていくことが必要。 ・不登校対策やケース会議など、個々の事業に応じて連携し、校内での居場所作り・支援体制について進めている。 ・サポーターファイルの作成を行い、前期・後期ごとに個別の計画や成果を記録した。 ・校内研修で年に2回全職員で研修会を持つことができた。 ・進回相談などを活用し、適切な支援を試みることができている。 ・学年ごとに1本、年間8本の研究授業を実施することができた。 ・職員アンケートで93％。研究推進から発表し、他校の研究に積極的に参加している。	・今後幼小連携を推進する。 ・キャリアパスポートで自分のことを評価するのはいくつとどう思う、自己肯定につながる。 ・今後幼小連携を推進する。 ・キャリアパスポートで自分のことを評価するのはいくつとどう思う、自己肯定につながる。
			・発達障害や診断を受けた児童を中心にサポートファイルを作成する。 ・必要に応じてケース会議をもち適切な対応や支援をする。	・サポートファイル、個別の支援計画等の作成および書類の整備。 ・校内研修を年に2回以上行う。 ・学年ごとに年間1本授業を公開する。 ・職員アンケート「他校の研究に一人一回以上参加する」100％		・キャリアパスポートの結果は83％である。 キャリア教育を推進するための施策について具体的に考えていくことが必要。 ・不登校対策やケース会議など、個々の事業に応じて連携し、校内での居場所作り・支援体制について進めている。 ・サポーターファイルの作成を行い、前期・後期ごとに個別の計画や成果を記録した。 ・校内研修で年に2回全職員で研修会を持つことができた。 ・進回相談などを活用し、適切な支援を試みることができている。 ・学年ごとに1本、年間8本の研究授業を実施することができた。 ・職員アンケートで93％。研究推進から発表し、他校の研究に積極的に参加している。	・各学年、1年に1回以上出前授業に取り組む。 ・今後幼小連携を推進する。 ・キャリア教育を推進するための施策について具体的に考えていくことが必要。 ・不登校対策やケース会議など、個々の事業に応じて連携し、校内での居場所作り・支援体制について進めている。 ・サポーターファイルの作成を行い、前期・後期ごとに個別の計画や成果を記録した。 ・校内研修で年に2回全職員で研修会を持つことができた。 ・進回相談などを活用し、適切な支援を試みることができている。 ・学年ごとに1本、年間8本の研究授業を実施することができた。 ・職員アンケートで93％。研究推進から発表し、他校の研究に積極的に参加している。	・今後幼小連携を推進する。 ・キャリアパスポートで自分のことを評価するのはいくつとどう思う、自己肯定につながる。 ・今後幼小連携を推進する。 ・キャリアパスポートで自分のことを評価するのはいくつとどう思う、自己肯定につながる。
	特別支援教育の推進 ・特別支援教育の充実	・個に応じた支援計画を立て適切に実施する。 ・必要に応じてケース会議をもち適切な対応や支援をする。	・発達障害や診断を受けた児童を中心にサポートファイルを作成する。 ・必要に応じてケース会議をもち適切な対応や支援をする。	・サポートファイル、個別の支援計画等の作成および書類の整備。 ・校内研修を年に2回以上行う。 ・学年ごとに年間1本授業を公開する。 ・職員アンケート「他校の研究に一人一回以上参加する」100％	A	・キャリアパスポートの結果は83％である。 キャリア教育を推進するための施策について具体的に考えていくことが必要。 ・不登校対策やケース会議など、個々の事業に応じて連携し、校内での居場所作り・支援体制について進めている。 ・サポーターファイルの作成を行い、前期・後期ごとに個別の計画や成果を記録した。 ・校内研修で年に2回全職員で研修会を持つことができた。 ・進回相談などを活用し、適切な支援を試みることができている。 ・学年ごとに1本、年間8本の研究授業を実施することができた。 ・職員アンケートで93％。研究推進から発表し、他校の研究に積極的に参加している。	・各学年、1年に1回以上出前授業に取り組む。 ・今後幼小連携を推進する。 ・キャリア教育を推進するための施策について具体的に考えていくことが必要。 ・不登校対策やケース会議など、個々の事業に応じて連携し、校内での居場所作り・支援体制について進めている。 ・サポーターファイルの作成を行い、前期・後期ごとに個別の計画や成果を記録した。 ・校内研修で年に2回全職員で研修会を持つことができた。 ・進回相談などを活用し、適切な支援を試みることができている。 ・学年ごとに1本、年間8本の研究授業を実施することができた。 ・職員アンケートで93％。研究推進から発表し、他校の研究に積極的に参加している。	・今後幼小連携を推進する。 ・キャリアパスポートで自分のことを評価するのはいくつとどう思う、自己肯定につながる。 ・今後幼小連携を推進する。 ・キャリアパスポートで自分のことを評価するのはいくつとどう思う、自己肯定につながる。
			・発達障害や診断を受けた児童を中心にサポートファイルを作成する。 ・必要に応じてケース会議をもち適切な対応や支援をする。	・サポートファイル、個別の支援計画等の作成および書類の整備。 ・校内研修を年に2回以上行う。 ・学年ごとに年間1本授業を公開する。 ・職員アンケート「他校の研究に一人一回以上参加する」100％		・キャリアパスポートの結果は83％である。 キャリア教育を推進するための施策について具体的に考えていくことが必要。 ・不登校対策やケース会議など、個々の事業に応じて連携し、校内での居場所作り・支援体制について進めている。 ・サポーターファイルの作成を行い、前期・後期ごとに個別の計画や成果を記録した。 ・校内研修で年に2回全職員で研修会を持つことができた。 ・進回相談などを活用し、適切な支援を試みることができている。 ・学年ごとに1本、年間8本の研究授業を実施することができた。 ・職員アンケートで93％。研究推進から発表し、他校の研究に積極的に参加している。	・各学年、1年に1回以上出前授業に取り組む。 ・今後幼小連携を推進する。 ・キャリア教育を推進するための施策について具体的に考えていくことが必要。 ・不登校対策やケース会議など、個々の事業に応じて連携し、校内での居場所作り・支援体制について進めている。 ・サポーターファイルの作成を行い、前期・後期ごとに個別の計画や成果を記録した。 ・校内研修で年に2回全職員で研修会を持つことができた。 ・進回相談などを活用し、適切な支援を試みることができている。 ・学年ごとに1本、年間8本の研究授業を実施することができた。 ・職員アンケートで93％。研究推進から発表し、他校の研究に積極的に参加している。	・今後幼小連携を推進する。 ・キャリアパスポートで自分のことを評価するのはいくつとどう思う、自己肯定につながる。 ・今後幼小連携を推進する。 ・キャリアパスポートで自分のことを評価するのはいくつとどう思う、自己肯定につながる。
	数職員の資質向上 ・研修等の充実	・授業力の向上と授業改善をめざして校内研修会を実施する。 ・研修等の充実	・校内研修として、授業研究を行う。 ・他校の研究会に一人一回以上参加できる体制を整える。	・職員アンケート「他校の研究に一人一回以上参加する」100％	B	・キャリアパスポートの結果は83％である。 キャリア教育を推進するための施策について具体的に考えていくことが必要。 ・不登校対策やケース会議など、個々の事業に応じて連携し、校内での居場所作り・支援体制について進めている。 ・サポーターファイルの作成を行い、前期・後期ごとに個別の計画や成果を記録した。 ・校内研修で年に2回全職員で研修会を持つことができた。 ・進回相談などを活用し、適切な支援を試みることができている。 ・学年ごとに1本、年間8本の研究授業を実施することができた。 ・職員アンケートで93％。研究推進から発表し、他校の研究に積極的に参加している。	・各学年、1年に1回以上出前授業に取り組む。 ・今後幼小連携を推進する。 ・キャリア教育を推進するための施策について具体的に考えていくことが必要。 ・不登校対策やケース会議など、個々の事業に応じて連携し、校内での居場所作り・支援体制について進めている。 ・サポーターファイルの作成を行い、前期・後期ごとに個別の計画や成果を記録した。 ・校内研修で年に2回全職員で研修会を持つことができた。 ・進回相談などを活用し、適切な支援を試みることができている。 ・学年ごとに1本、年間8本の研究授業を実施することができた。 ・職員アンケートで93％。研究推進から発表し、他校の研究に積極的に参加している。	・今後幼小連携を推進する。 ・キャリアパスポートで自分のことを評価するのはいくつとどう思う、自己肯定につながる。 ・今後幼小連携を推進する。 ・キャリアパスポートで自分のことを評価するのはいくつとどう思う、自己肯定につながる。
			・校内研修として、授業研究を行う。 ・他校の研究会に一人一回以上参加できる体制を整える。	・職員アンケート「他校の研究に一人一回以上参加する」100％		・キャリアパスポートの結果は83％である。 キャリア教育を推進するための施策について具体的に考えていくことが必要。 ・不登校対策やケース会議など、個々の事業に応じて連携し、校内での居場所作り・支援体制について進めている。 ・サポーターファイルの作成を行い、前期・後期ごとに個別の計画や成果を記録した。 ・校内研修で年に2回全職員で研修会を持つことができた。 ・進回相談などを活用し、適切な支援を試みることができている。 ・学年ごとに1本、年間8本の研究授業を実施することができた。 ・職員アンケートで93％。研究推進から発表し、他校の研究に積極的に参加している。	・各学年、1年に1回以上出前授業に取り組む。 ・今後幼小連携を推進する。 ・キャリア教育を推進するための施策について具体的に考えていくことが必要。 ・不登校対策やケース会議など、個々の事業に応じて連携し、校内での居場所作り・支援体制について進めている。 ・サポーターファイルの作成を行い、前期・後期ごとに個別の計画や成果を記録した。 ・校内研修で年に2回全職員で研修会を持つことができた。 ・進回相談などを活用し、適切な支援を試みることができている。 ・学年ごとに1本、年間8本の研究授業を実施することができた。 ・職員アンケートで93％。研究推進から発表し、他校の研究に積極的に参加している。	・今後幼小連携を推進する。 ・キャリアパスポートで自分のことを評価するのはいくつとどう思う、自己肯定につながる。 ・今後幼小連携を推進する。 ・キャリアパスポートで自分のことを評価するのはいくつとどう思う、自己肯定につながる。
教育環境の整備・充実	学校を支える組織体制の整備 ①コミュニティ・スクールの充実 ②地域と学校の連携・協働体制の構築	・積極的に学校情報を発信する。 ・学校運営協議会と連携し、教育活動を進める。 ・地域と合同でイベントを実施。	・学校だよりを発行し、地域にも配布する。 ・ホームページにより学校の情報を積極的に発信する。 ・学校運営協議会と連携し、教育活動を進める。 ・地域と合同でイベントを実施。	・学校だよりを1月1回以上発行、HPを可能な限り日々更新する。 ・保護者アンケート「学校は、学校・学年だよりやホームページなどを通して学校情報を発信している」の回答90％以上 ・学校運営協議会委員と職員との交流の場を設け、課題解決に務める。 ・夏と冬の地域一斉パトロールへの参加	A	・学校だよりを1月1回以上発行することができた。 ・ホームページで機会あるごとに学校の様子を知らせることができた。 ・保護者アンケートの結果は97％である。 ・交流の場を設けることで、九九学習等において、取り組みを進めることができた。 ・夏と冬に計画的に参加することができた。	・継続して、学校運営協議会、家庭・地域との連携をはかっている。 ・継続して、学校運営協議会、家庭・地域との連携をはかっている。	・「クラス」のドアが常に開かれており、子どもたちがいつでも学校とつながる機会がある。先生方の日々の努力の賜物だと感じている。 ・「わかりやすい魅力的な授業は学力向上につながる」。
			・安全・安心な教育環境の充実 ①学校防犯訓練・防災教育の充実 ②子どもたちの安全対策の推進 ③交通安全対策の推進 ④学校施設等の整備・維持 ⑤学校における働き方改革の推進	・安全点検を行い、校内の危険場所の把握と整備を行う。 ・警察、自転車教室、CAP等学年の系統性を持って安全指導をする。 ・働き方改革として、定時退勤日を実施する。	・保護者アンケート「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」の結果が90％以上 ・1年、3年、4年生で実施 ・週に一度「定時退勤日・ノー会議デー」を実施する。	・保護者アンケートで98％である。参観日、懇談、オープンスクールは計画的に行うことができた。 ・保護者アンケートにおいて「学校は、保護者の願いに応えている。」との回答が90％以上 ・計画的に訓練を実施し、反省を共有して次に繋げていくことができた。 ・保護者アンケート結果は99％で、毎月の安全点検も定期的に行うことができた。 ・計画的に実施された。 ・設定はされているが、退勤時間16:45を守って退勤しているかという現状は厳しい。	・今後も行事、参観、懇談、オープンスクールなどを通して、学校の様子を定期的に见てもらう。 ・継続して防災教育に力を入れて、計画的に訓練を実施していく。 ・今後も定期点検を継続し、安全な環境を維持していく。 ・災害や不審者への対応は、備えが大切。日頃から訓練を感謝し、いいます。 ・働き方改革について、職員全体で考え、意識していく必要がある。	・「クラス」のドアが常に開かれており、子どもたちがいつでも学校とつながる機会がある。先生方の日々の努力の賜物だと感じている。 ・「わかりやすい魅力的な授業は学力向上につながる」。
	安全・安心な教育環境の充実 ①学校防犯訓練・防災教育の充実 ②子どもたちの安全対策の推進 ③交通安全対策の推進 ④学校施設等の整備・維持 ⑤学校における働き方改革の推進	・安全点検を行い、校内の危険場所の把握と整備を行う。 ・警察、自転車教室、CAP等学年の系統性を持って安全指導をする。 ・働き方改革として、定時退勤日を実施する。	・安全点検を行い、校内の危険場所の把握と整備を行う。 ・警察、自転車教室、CAP等学年の系統性を持って安全指導をする。 ・働き方改革として、定時退勤日を実施する。	・保護者アンケート「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」の結果が90％以上 ・1年、3年、4年生で実施 ・週に一度「定時退勤日・ノー会議デー」を実施する。	A	・保護者アンケートで98％である。参観日、懇談、オープンスクールは計画的に行うことができた。 ・保護者アンケートにおいて「学校は、保護者の願いに応えている。」との回答が90％以上 ・計画的に訓練を実施し、反省を共有して次に繋げていくことができた。 ・保護者アンケート結果は99％で、毎月の安全点検も定期的に行うことができた。 ・計画的に実施された。 ・設定はされているが、退勤時間16:45を守って退勤しているかという現状は厳しい。	・今後も行事、参観、懇談、オープンスクールなどを通して、学校の様子を定期的に见てもらう。 ・継続して防災教育に力を入れて、計画的に訓練を実施していく。 ・今後も定期点検を継続し、安全な環境を維持していく。 ・災害や不審者への対応は、備えが大切。日頃から訓練を感謝し、いいます。 ・働き方改革について、職員全体で考え、意識していく必要がある。	・「クラス」のドアが常に開かれており、子どもたちがいつでも学校とつながる機会がある。先生方の日々の努力の賜物だと感じている。 ・「わかりやすい魅力的な授業は学力向上につながる」。
			・安全点検を行い、校内の危険場所の把握と整備を行う。 ・警察、自転車教室、CAP等学年の系統性を持って安全指導をする。 ・働き方改革として、定時退勤日を実施する。	・安全点検を行い、校内の危険場所の把握と整備を行う。 ・警察、自転車教室、CAP等学年の系統性を持って安全指導をする。 ・働き方改革として、定時退勤日を実施する。		・保護者アンケートで98％である。参観日、懇談、オープンスクールは計画的に行うことができた。 ・保護者アンケートにおいて「学校は、保護者の願いに応えている。」との回答が90％以上 ・計画的に訓練を実施し、反省を共有して次に繋げていくことができた。 ・保護者アンケート結果は99％で、毎月の安全点検も定期的に行うことができた。 ・計画的に実施された。 ・設定はされているが、退勤時間16:45を守って退勤しているかという現状は厳しい。	・今後も行事、参観、懇談、オープンスクールなどを通して、学校の様子を定期的に见てもらう。 ・継続して防災教育に力を入れて、計画的に訓練を実施していく。 ・今後も定期点検を継続し、安全な環境を維持していく。 ・災害や不審者への対応は、備えが大切。日頃から訓練を感謝し、いいます。 ・働き方改革について、職員全体で考え、意識していく必要がある。	・「クラス」のドアが常に開かれており、子どもたちがいつでも学校とつながる機会がある。先生方の日々の努力の賜物だと感じている。 ・「わかりやすい魅力的な授業は学力向上につながる」。
			・安全点検を行い、校内の危険場所の把握と整備を行う。 ・警察、自転車教室、CAP等学年の系統性を持って安全指導をする。 ・働き方改革として、定時退勤日を実施する。	・安全点検を行い、校内の危険場所の把握と整備を行う。 ・警察、自転車教室、CAP等学年の系統性を持って安全指導をする。 ・働き方改革として、定時退勤日を実施する。		・保護者アンケートで98％である。参観日、懇談、オープンスクールは計画的に行うことができた。 ・保護者アンケートにおいて「学校は、保護者の願いに応えている。」との回答が90％以上 ・計画的に訓練を実施し、反省を共有して次に繋げていくことができた。 ・保護者アンケート結果は99％で、毎月の安全点検も定期的に行うことができた。 ・計画的に実施された。 ・設定はされているが、退勤時間16:45を守って退勤しているかという現状は厳しい。	・今後も行事、参観、懇談、オープンスクールなどを通して、学校の様子を定期的に见てもらう。 ・継続して防災教育に力を入れて、計画的に訓練を実施していく。 ・今後も定期点検を継続し、安全な環境を維持していく。 ・災害や不審者への対応は、備えが大切。日頃から訓練を感謝し、いいます。 ・働き方改革について、職員全体で考え、意識していく必要がある。	・「クラス」のドアが常に開かれており、子どもたちがいつでも学校とつながる機会がある。先生方の日々の努力の賜物だと感じている。 ・「わかりやすい魅力的な授業は学力向上につながる」。

学校関係者評価総括
今年度の取組について、概ね目標を達成している。今年度の反省をもとに、より取り組みを進めていって欲しい。

- 次年度に向けた重点的な改善点
○家庭学習の習慣を身に付けさせる。
○学級力向上プロジェクトにより、誰もが楽しく感じる学級づくりに取り組む。
○ICT等を活用しながら、より子どもたちにとって分かりやすく魅力のある授業づくりに取り組む。